

# 2,000人の児童によるバイオリン音楽祭

●東京体育館(千駄ヶ谷)

●昭和46年4月3日(土)午後1時30分

TOKYO GYMNASIUM SENDAGAYA APRIL 3 (SAT) 1971. 1.30PM



Allegro-Fiocco

May Song

Concert g min. 1st mov.—Vivaldi

Loure

Gavotto

Minuet-Bach

The Swan

Concert No. 4 1st mov.—Mozart

Concert a min. 1st mov.—Bach

Humoresque

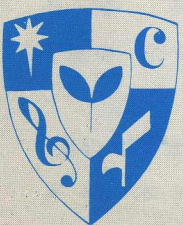
Bourree—Handel

Minuet No. 2—Bach

Allegro-S. Suzuki

Song of the Wind

Twinkle, Twinkle little Star Variation



**TALENT EDUCATION**

主催／社団法人 才能教育研究会

後援／財団法人 幼児開発協会



# 1970年度大会のスナップ

卒業式  
お免状を手にした各科卒業生代表



ゴセツク  
のガボット演奏



外国から  
のお客様



セロ合奏



## 大会委員

本多 正明  
田中 金重  
高杉 忠一  
奥村 慎三郎  
松井 宏中  
広瀬 八朗  
会 則道  
山本 真嗣  
佐藤 良雄  
水野 明夫  
林 智子  
渋谷 多恵子

## ピアノ伴奏

鈴木 静子  
片岡 治子

## 能力は能力の法則に 従って育つ

社団法人 才能教育研究会 会長  
鈴木 鎮一



ようやく零才からの教育が、世界の多くの識者達によって叫ばれる時代になりました。

育てもしないですてゝおいて、「この子は生れつき能力が低い」と諦める愚かさから、人類が、「人の子は、どの子も育つ、育て方ひとつだ」と気がついてきた新しい時代に、目覚めはじめたこの頃です。うれしいことです。

人の心も、能力も、性格も、生れつきではなかったのです。大昔からつゞけてきた愚かな人類最大のミステークから、今や、目覚めて、総ての人々が自覚し反省すべき時が来たのです。能力は生まれつきではなかったのです。

人は  
遺伝の法則に従って生れ、  
能力は  
能力の法則に従って育つのです。

## この感動的な印象こそ…

財団法人 幼児開発協会 理事長  
井深 大



鈴木鎮一先生に、昨秋勲三等瑞宝章が授けられた。おそまきながら、日本の国家が才能教育の大きな功績を認めた、ということであろう。たしかに、昨年あたりから、幼児教育への関心がにわかに高まり、鈴木メソッドは新鮮な感覚で輝きはじめた。幼い頃からバイオリンを習うということの、音楽の域をこえた大きな意味を、日本中がもういちど見つめ直している感じである。幼い時代の、純金のように無垢な可能性、すばらしい吸収力について、私たちは力を合わせて叫ぶ。叫びすぎることはないと思う。

全国大会での、たれもが受けるあの感動的な印象は、その動かぬ証拠なのである。



# プログラム

- 開会の辞.....大会委員長 本多正明  
卒業証書授与.....会長 鈴木鎮一  
お祝いの言葉.....名誉会長 徳川義親  
お祝いの言葉.....理事長 井深 大

## バイオリン合奏

- 1 ソナタ ト短調 第一・第二楽章.....エックレス  
2 協奏曲 イ短調 第一楽章.....バッハ  
3 アレグロ.....フィオッコ

## セロ合奏

- 4 a キラキラ星変奏曲.....鈴木鎮一編  
b 無窮動.....鈴木鎮一  
c ユーダスマカベウスよりの合唱.....ヘンデル  
d 白鳥.....サン・サーンス

## バイオリン合奏

- 5 カントリーダンス.....ウェーバー  
6 二つのバイオリンの為の協奏曲 第一楽章.....バッハ  
7 協奏曲 イ短調 第一楽章.....ビバルディ  
8 ルーレ.....バッハ  
9 ユーモレスク.....ドボルザーク  
10 二人のてき弾兵.....シューマン  
11 ガボット.....ゴセック  
(二人三脚演奏)  
12 メヌエット 第三番.....バッハ  
13 無窮動.....鈴木鎮一  
14 アレグロ.....鈴木鎮一  
(お楽しみ演奏)  
15 こぎつね.....ドイツ民謡  
蝶々.....スペイン民謡  
16 キラキラ星変奏曲.....鈴木鎮一編

全員合唱と合奏 螢の光.....スコットランド民謡

# PROGRAM

- Greeting.....Chairman M. Honda  
Graduation Ceremony.....President S. Suzuki  
Words of Congratulation ... Hon. President Y. Tokugawa  
Woras of Congratulation ... Board of Director M. Ibuka

## Violin

- 1 Sonata g min. 1st & 2nd mov. .... Eccles  
2 Concerto a min. 1st mov. .... Bach  
3 Allegro ..... Fiocco

## Cello

- 4 a Twinkle, twinkle little Star-Variations... arr. by S. Suzuki  
b Perpetuum Mobile ..... S. Suzuki  
c Chorus from "Judas Macabeus" ..... Händel  
d The swan ..... Saint-Säens

## Violin

- 5 Country Dance ..... Weber  
6 Concerto d min. 1st mov. for Two Violins ..... Bach  
7 Concerto a min. 1st mov. .... Vivaldi  
8 Loure ..... Bach  
9 Humoresque ..... Dvorak  
10 The two grenadiers ..... Schumann  
11 Gavotte ..... Gossec  
12 Menuetto No. 3 ..... Bach  
13 Perpetuum Mobile ..... S. Suzuki  
14 Allegro..... S. Suzuki  
15 Warnung ..... German Folk Song  
Papillon ..... Spanish Folk Song  
16 Twinkle, twinkle little Star-Variations ..... arr. by S. Suzuki

Auld Lang Syne..... Scotland Folk Song





# 2,000人の児童による バイオリン大合奏

第16回全国大会  
昭和45年3月31日  
東京体育館にて

鈴木鎮一バイオリン指導曲集は、有名なキラキラ星変奏曲（第1巻）に始まり、モーツァルトの協奏曲第4番（第10巻）に至っております。子供たちのためのこの驚嘆すべき10巻の教科書には、バッハを中心とする古典の小曲が60余曲、ソナタが4曲（ヘンデル・ベラチーニ・エックレス）・協奏曲が7曲（ザイツ・ビバルディ・バッハ

モーツァルト）で、何れも全楽章がおさめられています。

今、日本各地の才能教育教室では、3才前後から15・6才位までの6,000名もの生徒たちが、このえらばれた古典名曲の習得にはげんでおります。このように多数の子供たちが、堂々として優美な、バッハやモーツァルトなどの最良の芸術の領域に、直接参加してその心を磨きつゝあることは、何とすばらしいことでしょうか。（写真・バイオリン合奏 キラキラ星変奏曲）



## ABOUT TALENT EDUCATION

Shinichi Suzuki, rare and remarkable combination of philosopher, musician, child psychologist and man of deep character, came upon the basic principles of Talent Education almost by accident. Reflecting upon the fact that every child has within himself the ability to fluently master a language—his own—no matter how intricate the grammar, how abstract the basic concepts, or how subtle the variations of the sounds required, Suzuki reasoned that every child could likewise master a musical instrument if he were motivated in a similar way and taught by a comparable method. Over the past 25 years the validity of this reasoning has been abundantly proved by the tens of thousands of Japanese youngsters who have been taught to play the violin by Suzuki himself or by teachers trained by him.

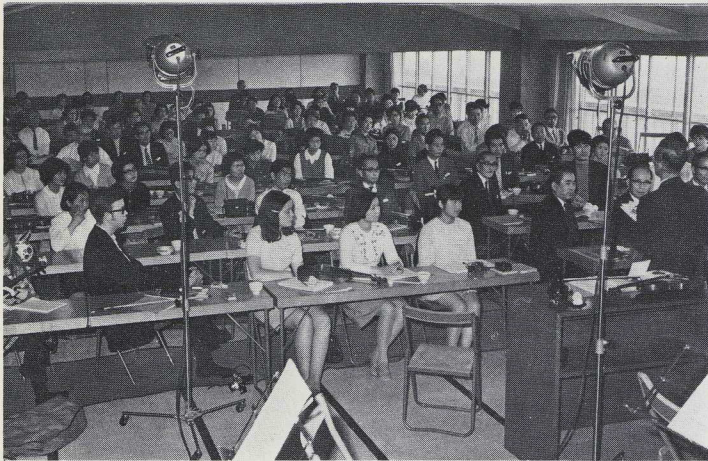
Starting from the premise that each individual is a product of his environment, Suzuki believes that "abilities are born and developed by the working of the vital forces of the organism as it strives to live and to adjust to its environment." The ideal of education is hence to assist every child to make his own individual adjustment in as rich and creative a manner as possible, and to Suzuki such terms as "superior" and "inferior" only indicate the relative success of the adjustment. Believing that the latent musical potential of any child is at least the equivalent of his language proficiency, Suzuki first of all rules out any pre-selection of students—all children possess a fantastically great potential which, for the happiness of the child, is capable of being developed enormously. All learning should begin just as soon as possible—Suzuki violin students commonly begin their study at the age of 3 or 3½. But even before this, the child should be exposed frequently and regularly to good music—just as the child from infancy is exposed to spoken language. Even the young infant will respond to and absorb music if the listening experience is repeated with regularity.



# 1年間のあゆみ

## 5月 指導者研究大会 5月17日～22日

残雪の白く光る妙高山のふもと、しずかな妙高高原ホテルが今年の会場でした。四国から北海道にいたる148名の参加者が、鈴木会長を中心に丸々一週間、才能教育の研究にうちこみました。



指導者研究大会

## 10月 アメリカ・ヨーロッパ演奏と講演の旅(第6回) 9月27日～11月3日

ことし始めてヨーロッパへの旅行が行われ、西ベルリン(ジュリアス・スターン音楽学校)、ロンドン(王室音楽学校)、リスボン(モニュメンタル劇場)での演奏とワークショップは、それぞれにふかい感銘をあたえました。10月6日ニューヨーク着、同市のマンハッタン音楽学校からパサデナの会場まで、4ヶ国、20都市、35日間の長い旅程をおえ、11月3日、団長の本多正明理事、伝田充正、中島美子、柳田三佐子(ピアノ伴奏)の三先生、付添父兄の東陽子さん、そして10名の生徒たちは元気一杯、羽田空港に帰着しました。



ロンドン王立音楽大学でのミニトリオによるアンコール演奏

## 8月 松本夏期学校 7月30日～8月4日

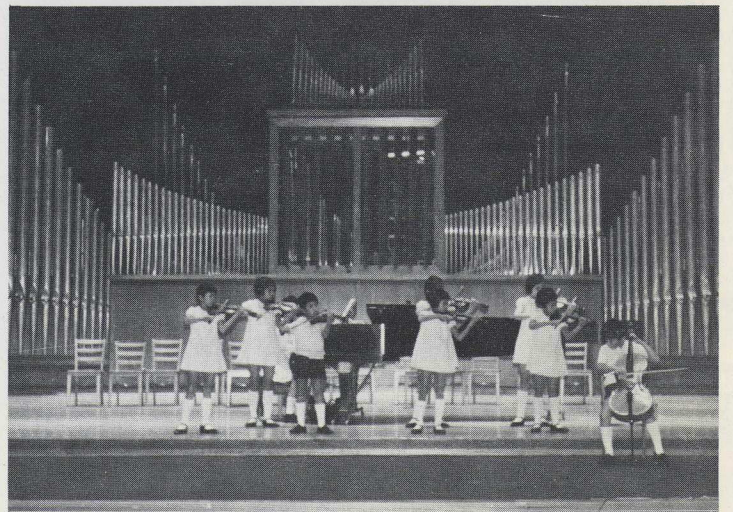
第19回夏期学校は参加生徒688名、前期と後期のそれぞれ3泊4日の日程で、美ヶ原温泉の宿舎は延べ4,000泊をこえました。鈴木会長と先生全員による多彩で豊富なレッスンと演奏会の展開は、1,200名に及ぶ生徒と付添の親たちを完全に魅了しました。



夏期学校



ロンドン BBCテレビ録画の演奏



アメリカ アイダホ大学での演奏会